

地域社会貢献事業

## 第6回ヤングジャズフェスティバル

日時／令和元年9月23日（月・祝） 13：30～15：45 会場／中電ホール 主催／公益社団法人名古屋中法人会 女性部会

## 地元から世界のジャズミュージシャン

「次世代につなげる幹を育てよう」を合言葉に、平成26年からスタートした「ヤングジャズフェスティバル」は今回で第6回を迎えた。

地元名古屋の小中学生と高校生による「名古屋青少年ビッグバンドフリーヒルズジャズオーケストラ」は、毎年全国の多くの大会で輝かしい成績をおさめている。

卒業後は大学進学後、プロの道に進む若者も多い。

懐かしの名曲、最近の映画音楽などをヒルズのOBとOGのプロを交え、日ごろの成果と今年で卒業するメンバーたちの最後の演奏に、会場は熱気に満ちていた。

今年も中法人会女性部会の応援を得て、私たちのリサイタルを開くことができることを、まずもって感謝申し上げます。

ホールを借りたり、チラシを作るにも、学校のように予算が無いなかで、こうして応援していただけることは大変ありがたいことです。

再来年には20周年を迎えることになりました。なかにはjazzに傾倒しプロの道を歩んでいるメンバーが少なからずいます。

20周年には、そんなメンバーを一堂に招き、記念演奏会を催したいと思っています。今回はそのイベントとして3人のOB・OGをお招きしました。古巣に戻って演奏するメンバーの成長ぶりをご覧くださいと思います。

そして、再来年の記念演奏会にも、ぜひ、お越しください。本日は、ご来場、ありがとうございます。

名古屋青少年ビッグバンド顧問  
きまた 木全 昭弘氏



主催者あいさつ  
女性部会顧問  
眞野 綾子氏



司会  
村瀬 正樹氏



受付 女性部会の皆様



# 次世代につなげる幹を育てよう

出演/名古屋青少年ビッグバンドフリーヒルズジャズオーケストラ ゲスト/Free Hills OB・OG サクソフォン奏者：岡崎 弦也氏、  
トランペット奏者：鈴木 風雅氏、パーカッション奏者：鈴木 華音氏 1st Stage/名古屋小中学生ビッグバンドLittle Hills Jazz Orchestra  
2nd Stage/名古屋ビッグバンドFree Hills Jazz Orchestra 3rd Stage/ゲスト&名古屋ビッグバンドFree Hills Jazz Orchestra



## 女性部会部会長舟橋幸江様 逝去のお知らせ

去る9月24日、当会の女性部会部会長の舟橋幸江様（ふなはし さちえ＝「喜多八」女将）が逝去されました。72歳。

「NHK大河ドラマの主人公に徳川宗春を！」NPO法人宗春ロマン隊の実行委員長として、尾張徳川家7代藩主・徳川宗春公をもっとも世に広めようと、平成22年7月8日には宗春公のご霊廟を改修し開眼供養されました。同月31日には名古屋市の錦通で「宗春パレード」も敢行されました。

同時に、長年女性部会役員の大任を担われ、法人会広報誌のインタビューとしても数多くご尽力を賜りました。

ご生前のご功績を偲び、心からご冥福をお祈り申し上げます。

公益社団法人名古屋中法人会 広報委員長 森田 文二



女性部会総会  
平成31年4月23日  
名古屋東急ホテル



広報誌で「建中寺住職  
村上 真瑞氏」を取材  
平成29年10月22日



御園・錦三支部地域協賛事業

# 第68回広小路夏まつり・なごや昇龍みこし

日時／令和元年8月17日(土)・18日(日) 17:00～ 会場／朝日神社・広小路通界隈



名古屋中税務署長 村田 知英子氏



前名古屋中税務署長 久野 浩介氏



なごや昇龍みこし 朝日神社境内



名古屋打ち水大作戦  
広小路通の打水



なごや昇龍みこし



全国から祭りや踊りが集結



夜店



みこしクイーンコンテスト表彰式  
栄広場特設ステージ



地域社会貢献事業

## 親子で税を学ぼう！

日時／令和元年7月25日(木) 12:00~17:00 集合場所／オアシス21前、名城小学校前、御園小学校前  
見学会場／愛知県警本部、名古屋中税務署、名古屋城本丸御殿 解散場所／金シャチ横丁義直ゾーン 参加対象／小学生親子

### 夏休み親子で中区の名所を巡り、税金クイズに挑戦

ガイドさん付きの観光バスで中区の名所を巡りながら、車内でお菓子タイム。日ごろ見ることができない愛知県警本部の見学、白川公園、大須観音、東別院、鶴舞公園外周、中部電力、愛知県美術館、名古屋中税務署「税の勉強会」、名古屋城本丸御殿見学、金シャチ横丁見学など、子どもたちの「夏休みの自由研究」に最適な一日でした。



名城小学校前

一瞬税務署長



名古屋中税務署「税の勉強会」



愛知県警本部

地域社会貢献事業

## 錦三夏まつり NAKAビアフェス2019

日時／令和元年8月2日(金) 18:00~21:30 会場／中区東本重町通り



会員交流事業

## 青年部会ボウリング大会

日時/令和元年8月28日(水) 18:30~ 会場/スポーツ名古屋



租税教育事業

## 第5回税に関する絵はがきコンクール 作品審査

審査/令和元年9月12日(水) 9:30~ 会場/名古屋中税務署



表彰式/令和元年11月9日(土)  
会場/三井住友SMBCパーク栄  
作品展示/令和元年11月9日(土)~15日(金)



## 第36回法人会全国大会三重大会

日時/令和元年10月3日(水)・4日(木) 14:00~ 会場/三重県津市産業スポーツセンター サオリーナ



大会宣言抜粋/中小企業の活性化に資する税制の要望  
事業承継税制のさらなる拡充

- 第1部 記念講演 皇室と神宮  
講師 伊勢神宮広報室広報課長 音羽 悟氏
- 第2部 式典
- 第3部 懇親会



三支部合同事業（御園・栄西・栄東）

# 万博記念公園・太陽の塔見学 カップヌードルミュージアム見学

日時／令和元年6月17日(月)



カップヌードルミュージアム



千早支部地域協賛事業

## 千早～夏祭り・盆踊り大会

日時／令和元年8月3日(土)  
会場／千早公園



老松支部地域協賛事業

## 老松～夏祭り・盆踊り大会

日時／令和元年8月5日(月)  
会場／老松公園



松原支部地域協賛事業

## 松原～夏祭り・盆踊り大会

令和元年8月4日(日)

「豊田佐吉翁の足跡を訪ねて」③

## 名言：「障子を空けてみろ、世界は広いぞ」

場所：錦三丁目の料亭「弥生」

社会保険労務士・北見式賃金研究所 所長・北見 昌朗

この、あまりに有名な言葉は、どこで発せられたかご存じだろうか？ 名古屋のど真ん中・錦三丁目である。

時は、大正8年である。豊田紡織では、一つの問題に関して意見対立が生じていた。上海に紡織工場を建てるか否かであった。

佐吉はこの年の10月、再び上海に視察に赴いた。西川秋次を伴っていた。佐吉は経済人による日中友好に情熱を燃やしていた。

しかし、この海外進出には社内からは強い反対があった。豊田紡織の経営がようやく安定したばかりというのに、事情のわからぬ海外へ力を注ぐことを心配した。海外進出には、弟の平吉、佐助が強く反対していた。妻の浅子も、心配していた。

上海進出計画は、何度話し合っても平行線を辿るばかりだった。そこで話し合いの機会が設けられた。

この頃、豊田紡織は重要事項を話し合う時に名古屋の袋町（名古屋市中区錦3丁目）の料亭「弥生」をよく使っていて、その「弥生」で会合を開いた。

料亭「弥生」は、昭和35年の住宅地図に載っている。昭和35年当時の住所は東袋町2丁目で、現住所では錦三丁目9番地である。オザワ科学の東隣近辺である。名古屋ガーデンパレスホテルの東のブロックの道を隔てて北側というとわかりやすいかもしれない。

佐吉はまず自分の想いから話し始めた。以下「豊田佐吉傳」より引用。

「戦争で血を流して領土を拓めようなどということは昔のこと、今は互に国民と国民とが好く知り合って親しみの裡

に堅い握手を交わし、互に経済的に結び合い助け合うようにしなければ駄目じゃ」

「自分は断然、中国へ渡って紡織事業を起そうと思う。何んといっても中国は日本にとって一大市場じゃ。日本は幸いに近年中国市場から外国品を駆逐したが、英・米・仏の各国は必ず市場の回復を企ててくる。中国市場より日本品を駆逐しようと必ずやって来る。今が一番大切な時じゃ。だから自分は中国へ渡って、わが日本のために大いにやろうと思うのじゃ。たとえ儲けた金を、この中国での事業で損をしたところで、少しでも国家に御奉公が出来たと思えば、それで充分気が済むというものじゃ。」

佐吉の話をお聞きながら、参加者は首を傾げた。話し合いは延々と続いた。

佐吉はすっと立ち上がり、窓の近くに行き、障子をバシッと開けて言い放った。

「障子を開けてみよ。外は広いぞ」

部屋には沈黙が流れた。そこで煙草の火をいきなり消して「ああ、もう」

と言いながら、立ち上がったのは弟の平吉だった。

「ええい、どうせ兄ちゃんの作った会社だ。兄ちゃんがそこまで言うなら、仕方ない。みんなもそれで承知しろ」

もう、ここまでくると止めようがなかった。このようにして上海への進出が最終決定された。

この上海進出は結果として成功だった。責任者を務めた西川秋次は、工場を軌道に乗せて巨額の利益を生み出した。

時は下って昭和8年頃である。豊田家では、また大きな議論に火が点いていた。自動車進出である。

喜一郎は、自動車事業に邁進した。だが、自動車開発は莫大な資金が必要で、利三郎は反対して開発資金を出し渋った。

二人の対立を遠くで眺めていたのが上海責任者の西川秋次だ。秋次は上海から帰国するなり、料亭「弥生」に幹部陣を集めて次のように言い切った。

「大大将（佐吉）の遺志を継ぐのに何の遠慮が要りましょう。喜一郎さん、お金ならこの不肖西川がいくらでも調達してみせます。大大将の経歴に恥じない仕事をして下さい」。

秋次はこれ以降、眉をひそめる豊田本社の意向を無視して、上海から巨額の資金を喜一郎に送り続けた。こうして自動車開発が本格化した。



これは、大正3年の古地図に印を付けたものである。

#### 北見 昌朗氏

社会保険労務士で北見式賃金研究所の所長。名古屋城天守閣を木造復元し、旧町名を復活する会を主宰。愛知千年企業（中日新聞）など著書多数。豊田佐吉翁を尊敬して、その生涯を追う。この記事は、昔の話ですから、筆者の空想も混じっていることをご承知下さい。また、現トヨタ自動車グループとは関係ありません。



「住吉の語り部となりたい」①

# 洪澤栄一翁・神田鑄蔵祖先建碑除幕式に来名

料亭つたも主人・深田 正雄

2024年上期から発行される新1万円札の肖像画には日本の資本主義の父とされる実業家の洪澤栄一、裏面は東京駅のデザインと発表されました。全国各地に洪澤氏の信奉者も多く、様々な会社設立等に関与しております。今回は、大正4年、洪澤翁が子分・神田鑄蔵（かんだ・らいぞう）の激励のために名古屋来訪されたお話をご紹介します。



祖父・深田良矩は愛知三中を卒業後、明治末期より蟹江・須成村市場近隣の酒造業者・紅葉屋の神田鑄蔵に師事して名古屋で金融業を営み、東京で活躍する相場師鑄蔵を地元で支えていたようです。明治5年生まれの鑄蔵は洪澤栄一から薫陶を受け、現東京証券取引所設立に尽力し、外債発行で活躍。日露戦争後は紅葉屋銀行を創設、株式市場のみならず横浜倉庫の経営、逗子開成中学の再建、浮世絵コレクションなど八面六臂の活躍をされました。

須成から名古屋進出にあたり、良矩は鑄蔵の弟分として、伊勢町界隈で新株発行引受部門を担当しておりました。また、同郷の後藤道政は神田銀行の名古屋支店長として資金面で両名をサポートしていたようです。

インターネット百科事典の「コトバンク」には、神田鑄蔵について右記のように紹介されています。



神田鑄蔵



祖父・深田良矩

名古屋商〔明治21年〕卒後、家業の酒造業に従事。明治26年名古屋株式取引所創設と共に、株式の思惑買占で40万円という巨利を得たが、日清戦争後の不況下に破産。

32年上京、紅葉屋商店を創設し、有価証券の仲介業を営んだ。鉄道株の売買で巨富を築き、洪澤栄一の援助で国債の欧州輸出を行うなど、“証券界の鬼才”と称された。

のち紅葉屋銀行を創設、大正7年神田銀行と改称。

さらに諸会社を主宰し、育英・公共事業にも関係したが、昭和2年金融恐慌で倒産した。

洪澤翁は大正4年4月3日、神田鑄蔵家の家系碑題字を揮毫して、除幕式に出席祝辞を述べております。前日に東京を東海道線にて発し、上園町の丸文楼に宿泊。丸文は名古屋の高級人気旅館で広小路秋琴楼、堅三蔵町の名古屋ホテルと並ぶ名門トップ3でありました。(中京新報人気投票より)

翌朝は7時に起床入浴、朝食後、伊藤守松（いとう呉服店）、中井巳次郎（京都中井紙店・名古屋別邸は料亭かもめ）などの訪問を受けたのち、鑄蔵とともに午前9時名古屋駅より貸し切り列車で蟹江に到着。松井知事、阪本市長ほか名士とともに、名古屋の芸妓100名余り（おそらく祖父良矩が手配）も同行したとのこと。家系碑のある須成・善

教寺は園遊会で大賑わい、雨模様にもかかわらず蟹江川堤・満開の桜と山海の珍味を揃えた屋台料理で午後4時まで200名を超える宴が催されました。

渋澤翁の日誌『竜門雜誌』第324号P67より当日の様子：建碑委員の後藤直藏の式辞、神田氏の除幕とともに東別院輪番導師十数名の読経の後、青淵先生（栄一の号）演説について原文を下記に引用します。

石碑の文字は私が書いたのであります、未来迄恥を残すは恥づべき次第と思つたが懇請に依て書いた、凡そ人が祖先を祭ることは最も喜ぶべきことであつて、帝国臣民としても孝道を尽さなくてはならぬ、神田君が功を立てたのも畢竟善の家に余慶ある訳である、元来尾張の地は今より三百年前に豊臣秀吉を出し、之について加藤清正・福島正則・

前田犬千代等を出したが、これ治国平天下のことであつたが、今日は実業家に限ると思ふ、而して今や神田君の如き実業家が出て、三百年間の英雄と勲を等ふすることは大に賀すべき次第である、古語に錦を着て故郷に帰るといふことがあるが、桜を着て古郷に帰るといふも讃辞でないと思ふ云々

鑄藏は日露戦争で資金調達・外債募金に尽力、財をなし、明治43年には逗子開成中学が七里ヶ浜ボート遭難事故で大きな負債を抱えて廃校の危機に陥ったときに、負債の一部を肩代わりし窮状を救うなど教育にも熱心でした。2009年蟹江町教育委員会主催で同中学高校の元校長袴田潤一氏がお越しになり、神田鑄藏セミナーで偉業をたたえていただきました。



須成・神田鑄藏家の家系碑：後方が蟹江川 かつて川沿い桜並木が名物でありました（左）  
善教寺：深田家代々の墓、家系碑の手前にあります